

C. 総合学習の研究

“ゆとり”の時間を利用した総合学習の展開

——中3における総合学習「人間について考える」の試み——

安藤 富美子	川田 基生	白井 宏	鈴木洋一郎
高須 明	高橋 祐子	田中 裕巳	徳井 輝雄
増田 温美	松井 一幸	三橋 一夫	山田 雄一

1 テーマ設定とその後の歩み

本研究グループのメンバーが確定し、様々な教科の教師12名がそれぞれの専門を生かしながら、また時には専門にとらわれずに越境しつつ、「人間について考える」総合学習を展開するためにテーマを出し合ったのは1981年の初春でした。何度か各自のテーマを持ち寄り検討を重ねて行くうちに、全体テーマは「生物的存在としての人間——自分自身の理解のために——」に決定し、実施学年は、“ゆとり”の時間のある中学で、しかも、最終学年の3年がふさわしいのではないかということになった。1981年度の始まりに際して、次の10のテーマのもとに、各自が授業案を作成し、実践に移して行くことが確認された。

- (1) 宇宙の成立から人間の誕生まで
- (2) 社会的動物としての人間の誕生
- (3) サルの生態から
- (4) 生物における性の役割
- (5) 信号と言語
- (6) 食べもの
- (7) ロボットと人間
- (8) 遺伝子工学と人間
- (9) 病気と健康
- (10) “生きている”とは何か

(1)で生物の歴史の中にヒトの誕生の意味を位置づけたあと、(2)、(3)、(4)では主にサルと人間との比較によって、人間にとっての労働、学習、性の果たしている役割を明らかにする。(5)、(6)では、言語、食べものを通して人間の文化を考え、(7)、(8)、(9)では、人間の身体、人間の尊厳とは何かを考えることになる。そして最後の(10)では、この総合学習“生物的存在としての人間——自分自身の理解のために——”のまとめとして、人間が人間として生きるとはどういうことなのか、そのための必要条件と十分条件ということを考えさせたい。

以上が、昨年度本校紀要において報告したことであり、今年度は「実践篇のレポート」が予告されていた。次章において展開するように、たしかに10篇の授業案が作成され、そのうち3篇までは、すでにまがりなりにも授業として実践された。

1981年度

第1回 6月25日(木)第5限

“宇宙の成立から人類の誕生まで”

(授業者 松井一幸)

第2回 1月28日(木)第5限

“サルからヒトへ”(授業者 田中裕巳)

第3回 2月18日(木)第5限

“ロボットと人間”(授業者 徳井輝雄)

1982年度

第1回 4月20日(木)第6限

“宇宙の成立から人類の誕生まで”

(授業者 松井一幸)

第2回 5月6日(木)第5限

中3A “ロボットと人間”(授業者 徳井輝雄)

中3B “サルからヒトへ”(授業者 田中裕巳)

第3回 6月3日(木)第4限

中3A “サルからヒトへ”(授業者 田中裕巳)

中3B “ロボットと人間”(授業者 徳井輝雄)

第4回 6月17日(木)第5限

中3A “食物の歴史”(授業者 増田温美)

中3B “人類の繁栄と食糧問題”

(授業者 高須 明)

今後実施予定のものも含め、10篇の授業案をならべ全体としてながめてみると、当初の10のテーマのうち、“社会的動物としての人間の誕生”、“病気と健康”などのテーマが取り込まれずに置かれている。それは、当初の10のテーマの分担がはっきり合意されていなかったことと、個々の授業案についての討論が不足していたことに起因していると考えられるが、この問題は第3章で考えてみたい。(田中)